

## 「現場教師が中心に進める交通環境学習」

札幌市立幌西小学校 校長 新保元康

札幌市の交通環境教育は、現場の教師が中心になって授業を作り、実施するのが大きな特色です。

授業作りは次のように進めました。札幌市の公共交通担当部局や大学の先生、交通事業者等の専門家の皆さんと教師がじっくり討議して指導案作成。このとき、重要なデータを提供していただいたり、教材の作成をお願いしたりすることもあります。実際の授業は、教師が実施。その授業を関係者みんなで参観し、授業後徹底的にディスカッションします。その一連の過程を繰り返すことで、より中身の確かな授業が開発されているのです。

平成23年度から3年間エコモ財団さんのご支援をいただきながら進めた「小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業」では、既に13本の授業を開発。そのすべてが、札幌市のHP上で公開されています。

<http://www.city.sapporo.jp/sogokotsu/gakusyuu.html>

ご支援の終了後も活動は継続。今年度は、いよいよ副読本(カラー12P)がまもなく完成します。この副読本の見本を使った授業は既に実施済みです。授業をもとに改良した完成版が、この秋に札幌市内の小学3年生全員(約200校、1万4千人)に配布されます。

我々が最終的に願っているのは、札幌市のどの学校でもこの授業が行われることです。つまり、札幌市民は小学校で一度は札幌の公共交通について学んで大人になる、という姿を求めているわけです。

札幌市の豊かな自然環境を守るためにも、高齢者の移動手段を守るためにも、公共交通の良さをしっかりと学ばせたいと願っています。